

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良教育大学附属小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
所在地 〒 630-8301
奈良市高畑町
E-mail fusho@nara-edu.ac.jp
Website http://www.nara-edu.ac.jp/ES/index.htm
幼児児童生徒数 男子 273名 女子 261名 合計 534名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「真理・真実を追求する人間的自立」を学校理念として、ESDを人類が築いた人権や平和の概念を核に国際理解や文化の多様性理解と捉え、ESDの実践を通して人類自らが持続可能な国際社会や自然環境を守り育てる力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、地域の伝統文化、平和学習を柱に、①文化の多様性に係わる活動、②地域の伝統産業に係わる教育、③平和教育に係わる学習を行った。

① 文化の多様性に係わる活動

当校の外国語活動では、英語の学習とともに、「言語・文化」という領域をつくり、さまざまな国の言語の規則性を知る中で母語への気づきを深めるとともに、文化の多様性をつかむことをねらいにした学習を構築している。

文化の多様性を知るために、5年生では本学の留学生を招き母国の文化を紹介してもらう場面を設けている。5,6人の小グループに1人の留学生がやってきて、言語だけでなく映像や実物、身振りなどを駆使し、例えば民族衣装や食品といっ

た実物が持ち込まれたり、映像で建築物を写したり、子どもの遊びなどが紹介される。他国の様々な文化を知ることにより子どもの世界観はうんと広がる。

② 地域の伝統産業に係わる教育

4年生の社会科では、教材として県内の特色ある産業を実際に見学し取り扱う。秋の社会見学では、奈良県南部に広がる吉野山地に位置する川上村の林業の学習に取り組む。吉野杉の特色は、「まん丸」「まっすぐ」「もとと末が同じ太さ」「年輪の幅が細かい」などと森林組合の方が教えてくださる。樹齢200年を超える吉野杉に育つには、一面に広がる豊かな自然と人間の営みが必要不可欠である。森林組合の方は、外材が輸入されて日本の材木が売れにくいことや高齢化が進み後継者不足という課題にもふれられた。日本の産業全体が抱える課題でもある。

③ 平和教育に係わる学習

本校の6年生は1学期に広島修学旅行に取り組んでいる。事前に原子爆弾の3つの被害などを学ぶ。広島では、平和記念資料館の見学だけでなく、市内に残る被爆の実相を今も伝える遺跡を見学する。今年度も、鉄の扉が曲がったままの元陸軍被服支廠で被爆された中西さんの体験談を現地で聞いた。修学旅行から帰った6年生は広島で学んだことを縦割りグループを通じて全校に伝えた。さらに今年度は、県内で戦争体験を語り継ぐ人や、アーサー・ビナードさんというアメリカ人の視点からとらえたヒロシマを語る人との出会いをつくり、より多面的にヒロシマ学習を深めた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・『小学校副読本 森林とわたしたちの生活』(奈良県)・『平和のとりでを築く』(作・大牟田稔)・歌『白い鳩』(ボヤン・バラバノフ作詞/ゲオルギー・ディミトロフ作曲/岩井照清訳詞)・記録映画(DVD)『平和公園に眠る故郷—CGでよみがえる記憶の町』(NHKドキュメント2010)・『ガイドブックヒロシマ 被爆の跡を歩く』(原爆遺跡保存運動懇談会編/新日本出版社)・『原爆の火』(岩崎京子文・毛利まさみち絵/新日本出版社)・『さがしています』(アーサー・ビナード作・岡倉禎志写真/童心社)・『絵本 まっ黒なおべんとう』(児玉辰春 文・長澤靖 絵/新日本出版社)・『伸ちゃんのさんりんしゃ』(児玉辰晴 作・おぼまこと/童心社)・『世界の人びとに聞いた100通りの平和』(伊勢崎賢時治監修/かもがわ出版)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

平和教育を例に挙げると、6年生の子どもたちの学びは、国語科・社会科音楽科・総合的な学習といった複数の教科にまたがった学びを深めていくことになる。また学んだことは、全校集会、たてわりグループなど全校に伝え発信していくことにも力を入れている。さらに今年度は、広島修学旅行だけを起点にするのではなくて、その後、戦争体験者、戦争を語り継ぐ人に出会い、アメリカ人からみた原子爆弾という他国からの視点なども取り入れ、年間を通じたカリキュラムとした。その中で子どもたちは、戦争・核兵器について、多面的、総合的な見方を育てた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は、教員がそれぞれ各教科部に属し研究・実践をすすめているが、各教科部はSDGsで述べられている17の目標を意識し教科部としてどんな貢献ができるのか、またどんな横断的な学習が可能か追求し、会議で確認しながら年度総括で成果を共有するようにしている。また、児童会活動でも担当教員を中心に、特に平和については全校集団づくりの中核になるよう毎年、新しい教材を発掘しながら実践をすすめている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期末ごとに学校評議員会を設けて、評議員に学期ごとの学校の取り組みを説明し評価を受けている。学校からの取り組みの説明の中には、児童会の取り組みや、平和の取り組み、地域との連携、全校集会などを盛り込んでいる。その中で、平和に対する取り組みについては評価されているが、他の分野についてもより意識的な取り組みをすすめてはどうかという指摘もある。会議で確認しながら、教員研修ともむすびたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

2月3日に、「“子どものため”の教育課程づくり」というテーマのもと第44回教育研究会を開き、同時に研究紀要も配布した。研究会には、本学学生を始め、県内外教員など291人の参加を得た。講演では、中嶋哲彦氏が、いかにして知性と理性を一致した学びがこれからの学習に大切か話された。また、本校教諭河野晋也を日本ESD学会主催の特別企画シンポジウムにシンポジストとして派遣し、実践報告をした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本大学が主催する「第5回奈良ASPネットワークESD子どもキャンプ」に当校児童が参加した。また、奈良ESDコンソーシアム第1回構成団体連絡会議(7月23日)に加わり、ESDに関する研修にも参加した。その中で、戦争を体験した者が減少してきている中、どうその体験を共有し継承するかが緊急の課題になっていると発言した。校区内の子どもの安全を確保するため、「あすか子ども安全ネットワーク」に参加した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校教諭を、日本ESD学会事務局員として学会運営と学会行事の計画・実施に向けて派遣し、学んできたことを職場に広めた。
また、本大学や附属中学校との連携も大切にしてきた。大学から、留学生を派遣してもらい国際理解を進め、音楽科学生からは4年生に伝統楽器である琴にふれる機会をつくった。附属中学校とは、教科教育の連携について協議する場をとった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

広島修学旅行では、実際に被曝された中西さんにその現場でお話を聞き、子どもたちは衝撃を受けた。「二度とこうしたあやまちを繰り返さないためにたくさんの人に伝えてほしい」という中西さんの願いを受けて、家族はもちろん全校に広めともに考え合おうという機会になった。また、地域の社会見学では、食の安全性につながるものもあり、消費者と生産者をつなぐ視点として子どもたちがこれからのくらしを考える視点につながった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

広島修学旅行は、来年度は5月16日・17日に予定している。二日間とも広島で過ごし、平和公園だけでなく市内に残る原爆遺跡と被爆者のお話を聞く計画である。その後、何を中心に教材化するかは子どもの願いや希望をもとに、6年生自身が語り部として全児童に広め全校児童で原子爆弾だけでなく戦争や平和に対する認識を深めたい。

また、5年生は12月6日・7日と和歌山県勝浦市のマグロ遠洋漁業と太地町の沿岸漁業の現地学習を予定している。限られた海洋資源に人々がどう向かい合って共存してきたのか、漁師の方にお話を聞き、魚市場などの見学に取り組む。各学年の社会見学ではこのように、伝統産業などが続いてきた背景にある自然と人々の営み、そして現在の課題に向き合わせる計画である。